



市長メッセージ

『備えなし』が6割。
今すぐ始める防災チェック！

先般、市内1,000名の皆さんを対象に実施した「地域福祉に関する市民意識調査」（回答率47％）において、約6割（58.5％）の方が「災害時の備えができていない」と回答されており、私はこの調査結果を重く受け止め、皆さんには改めて危機意識の共有をお願いします。

私は、市政運営の最も大切な目標（一丁目一番地）として「災害による犠牲者ゼロ」を掲げています。この目標を達成するためには、行政の対策とともに、市民一人ひとりの備えが不可欠です。

今年も本格的な台風シーズンを迎えています。先月には台風6号の影響で本県に線状降水帯が発生し、古座川町で大きな被害が出ました。

気象庁は5月末から、災害の危険度を5段階で分かりやすく伝える「新防災情報」の運用を開始しました。本市においても、この情報に基づいた適切な避難行動を促すべく、職員への研修を実施しました。

また、南海トラフ地震への備えも待ったなしの課題です。昨年7月のカムチャツカ半島沖地震による津波警報の際、本市では市内全域に避難指示を発令し、約700名の方が避難されました。これは東日本大震災時の約3.6倍にあたります。皆さんの防災意識が確実に高まっていることを、大変心強く感じております。

しかし、いざという時、人間には『正常性バイアス』という心理が働き、無意識に『自分だけは大丈夫』と自分の安全を過大評価してしまいます。どうか、その思い込みに惑わされず、冷静な判断をしてください。

7月18日は、昭和28年に本市に甚大な被害をもたらした「7.18水害（紀州大水害）」の日です。この日を機に、洪水・土砂災害、津波、ため池などのハザードマップを広げ、自宅から避難場所までの経路を具体的に確認してください。大切な命を守るためには、「いつ」「どこに」逃げるかの準備が重要です。状況に応じ、以下の避難方法をあらかじめ決めておいてください。

1. 垂直避難：自宅の2階など、より高い場所へ移動
2. 分散避難：安全な親戚や知人の家へ移動
3. 車中泊：避難所までの移動が困難な場合
4. 避難所への避難：行政が指定する避難施設へ向かう

これらにあわせて、家具の固定、非常用持出袋の準備、水・食料品の備蓄、そしてカセットコンロ・携帯ラジオ・簡易トイレといった防災グッズのチェックも必ず行ってください。

近年、気候変動の影響により、局地的かつ集中的な豪雨や想定外の風水害が頻繁に起きています。災害は、忘れた頃にやってくるのではなく、「忘れる間もなくやってくる」時代です。

どうか皆さん、ご自身の命そして大切な人の命を守るため、今すぐ備えの確認をお願いします。

御坊市長 三浦 源吾

広告

その人らしい暮らしをサポート

社会医療法人 黎明会

ケアプランきたで・和佐の里

☎0738-52-5217 8:30～17:30(月～土) 休業日 日曜・年末年始(12/31～1/3)

お気軽に
ご相談ください。



友だち
募集中



会員
募集

働く楽しみ いきがいつくり！あなたの笑顔みたいから。

60歳以上のお仕事したい方に！

御坊市在住、60歳以上の方で
健康で働く意欲のある方に！

◆平均年齢 73.8歳◆

※お仕事内容はセンターによって異なります

※定期入会説明会 毎月1日/15日 午後1時30分～ 御坊市シルバー人材センター(休日の場合は翌日)事前に予約連絡を

女性会員も活躍中！



事業主の皆様・ご家庭の皆様
さまざまなお仕事お引き受けしています。
お気軽にご連絡ください。

お問合せ先

御坊市シルバー人材センター

電話090-8655-7556

御坊市園76番地(御坊市立体育館内)

厚生労働省委託事業 高齢者活躍人材確保育成事業

公益社団法人 和歌山県シルバー人材センター連合会

紀州新聞は購読料

(1ヵ月) 税込 2,000円

※郵送の場合は別途



紀州新聞社

御坊市島172 ☎0738(22)2536(代)



日高新報電子版

月額
税込

1,500円

まずは 2週間の無料試読を！

《日高新報(紙版)を購読されている方は+500円で閲覧できます！》

お問い合わせ 日高新報社 TEL 0738-24-0077まで



お申し込みは
コチラ

日高新報HPからも
お申し込み
いただけます